

播磨まちかどニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 120

令和7年度兵庫県いなみ野学園修了式並びに卒業式

◆配信日 令和8年4月1日◆



今回は、令和7年度の「修了式・卒業式」の様子をお伝えします。

令和8年2月27日（金）、令和7年度「大学院講座修了式」並びに「大学講座卒業式」が、午前10時からいなみ野学園の大講堂で行われ、



神足副学園長の司会進行で始まりました。

「開式のことば」に続いて「国歌演奏」があり、「修了証書並びに卒業証書授与」です。初めに大学院講座



37名の証書授与があり、川西学科主任から一人ずつ名前が呼ばれていきました。最後に、総代として毛利修三大学院自治会会長が証書を受け取りました。

続いて、大学講座卒業証書の授与です。各学科主任から同じく一人一人の名前が呼ばれていきました。園芸学科、健康づくり学科、文化



学科、陶芸学科の4学科総勢162名のみなさんです。最後に、総代として森畑稔

大学自治会副会長が証書を受け取りました。この後は、「学園長の式辞」、「知事の祝辞」、「来



賓のあいさつ」と続けました。

先ず初めは、橋本正人いなみ野学園学園長の「式辞」です。

学園長は、「家庭や仕事、また地域の活動など並行しながら学園生活を全うされ、今日、ご卒業おめでとうございます」と話されました。

続いて、知事祝辞です。現在、県議会開催中のため、木南晴太（きみなみ・せいた）東播磨県民局副局長が代読されました。

知事からは、「初年度が新型コロナの時、不自由な生活を強いられながらも、卒業を迎えられた努力と熱意に心からの敬意を表します」とのメッセージでした。



次に、多数の来賓の方々を代表して高橋みつお参議院議員が「お祝いの言葉」を述べられました。

高橋議員は、「晴れて修了式・卒業式を迎えられたみなさん、心からお祝い申し上げます。学びに向けた努力と関係者のみなさんの支えに、心から敬意を表します」と話されました。

この後は、大学院修了に伴う「准講師」の授与があり、「卒業記念品の贈呈」と続きます。



いよいよ式も終わりに近づきました。村上俊之大学自治会3年副会長が在校生を代表して「送辞」を述べ、それに応えて、藤井隆博大学自治会会長から、卒業生を代表して「謝辞」がありました。藤井大学自治会会長は、「これからも新しいことに喜び、笑い、自分に出会う、そん

な前向きな気持ちで生きていきます。卒業は当たり前ではない、誇るべきこと、感謝してよい。心から自分自身に拍手を送ろうではありませんか」との言葉で拍手が沸き上がりました。

この後、全員で「学園歌」を歌い、「閉式のことば」で、全てが終了しました。



式が終わって、お二人にインタビューをしました。大学院を修了された竹内さんは、「修了レポートは難しいのではと思っていましたが、2年

の秋から力が入ってきて、段々と楽しいなあと思えるものとなりました」と話されました。

同じく大学自治会会長の藤井さんは、いなみ野祭を振り返って、「できるだけ多く演技をしてほしいと16時まで延ばしたり、キッチンカー・パトカーに入ってもらったり、キッズダンスで盛り上げてもらったりして、やり切った感がありました」と話されました。

お二人共、それぞれに大学院の2年間、大学4年間を充実した日々を送られてきたのだなあと思います。今回、修了・卒業された199名のみなさん方も、お二人同様、友と交わり、共に学び合い、絆を深めて、そんな充実した学園生活を送られたことでしょう。どうぞ、卒業後も、いなみ野学園と関わりを続けて欲しいものと願います。



(ナレーション 大前 小夜子)

護摩の炎と春の訪れ

◆配信日 令和8年4月16日◆



今回、鶴林寺で行われました「護摩供養」の様子をお伝えします。(鶴林寺は加古川市加古川町北在家 424 にあります)

令和8年3月20日(金)～22日(日)の3日間、恒例の『聖徳太子会式(えしき)』が執り行われました。

20日(金)は午後2時から本堂で「開闢(かいびやく)法要」が行われ、続いて常行堂(じょうぎょうどう)での「彼岸法要(ひがんほうよう)」も営まれました。

21日(土)は午後2時から本堂で「法楽(ほうらく)」があり、太子堂では「聖徳太子報恩法要」が営まれました。

そして22日(日)は午前11時から「大般若経(だいはんにゃきょう)転読法要」があり、午後2時から目玉の一つ「彩灯大護摩供(さいとうおおごまく)」が執り行われました。



行者問答

この「大護摩供(おおごまく)」は、信者の「問答」から始まります。厳かな儀式です。

その後も行者により、「大護摩供」の模様を、般若心経を唱えながら披露されました。

「護摩供養(ごまくよう)」は「護摩供(ごまく)」とも呼ばれ、ご本尊の前で火を焚(た)き、祈りを捧げます。燃え盛る炎は天の口で、神・仏が供物を食し、それで福を与えられているそうです。護摩供養は、厄除け、家内安全、商売繁盛など様々な個人的な願い事をします。つまり、神・仏に願い事を伝え、成就を祈る儀式で、護摩木を薪にくべて祈ります。



護摩壇への点火(松明)



煙を浴びると「ご利益がある」とされる。



参拝者が納めた護摩木を投げ入れる

いよいよ護摩壇に点火、火を焚きます。煙がもくもくと上がり、火が付きだすと一気に燃え上がっていきました。奉納した護摩木も一緒に投げ入れていくと、更に煙が上がり、炎も大きくなりました。

この煙を浴びると、ご利益があると言われてています。

「大護摩供」の後に、裸足で歩いて渡る「火渡りの儀」があり、一般のみなさんも火渡りを体験できるのです。「燃えた木の上を歩く！ エッ、やけどしないのかな？」 ちょっとビク



ビクしながら、みなさんも燃えた後のくすぶる木の上を渡って行きました。渡り終ると、行者から護摩札をいただきました。今年一年が無病息災で送れますように・・・とのことだそうです。

今回、参加されていた いなみ野学園研究生の早崎清志さんにインタビューをしてみま

した。

早崎さん曰く「私は毎年楽しく渡れていきます。最初は「どうかな、熱いのかな？」と思いながら渡りましたが大丈夫でした。ただ、今日は一か所熱いと感じるところがありましたが、



でも渡りきることができました」とのことでした。

もう一人、鶴林寺の檀家でもある大西勝さんにもインタビューしました。



大西さん曰く「毎年、カメラで記録を残してきています。写す側なので、一回も火渡りをしたことがないのです。この行事に関わる主催者側のみなさんが年々人数も減り、高齢化していて、ちょっと継続が危ないかなと思ったりします」とのことでした。

ただ、今回の『聖徳太子会式（えしき）』は大勢のみなさんが見にこられ関心の高さが伺えました。カメラ撮影の方たちも多く、大いに盛り上がるものでした。

そこでひとこと「燃えた後を歩く 熱くない熱くないと 一心に渡り切る」渡り切ったみなさんにご利益がありますように・・・。

最後にお便りを、ようやく春めいてきた様子は桜の花から。そうです、いなみ野学園に咲く枝垂桜が今6分咲きに・・・。満開になるとピンクに咲き誇るいなみ野学園のシンボルが、この枝垂桜です。

最後にお便りを、ようやく春めいてきた様子は桜の花から。そうです、いなみ野学園に咲く枝垂桜が今6分咲きに・・・。満開になるとピンクに咲き誇るいなみ野学園のシンボルが、この枝垂桜です。



(ナレーション 吉川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

《編集・発行》いなみ野学園 ビデオ制作委員会
(いなみ野学園大学院講座・研究生)

☎079-424-3342

